

## 秋田港における洋上風力発電

日本海沿岸の秋田県では、年間を通して強い風が吹いている。県では、この風の強さを生かし、2000年以降、280基以上の陸上風力タービンを設置してきた。近年の洋上風力タービンの設置は、カーボンニュートラルな社会実現の重要なステップである。

秋田港の水深が浅い遠浅の海底地形は、日本初となる大型洋上風力発電所の導入に適していた。2023年1月に13基の風車が稼働を開始し、各風車は約4,000世帯分の電

力を発電している。

洋上での建設には課題もあるが、洋上風力タービンは既存の建物やインフラに配慮する必要がない。加えて、洋上風力発電では、自然地形に遮られることなく大型の風車を建設することが可能である。陸上風車の平均的な高さは約120メートルだが、秋田港の洋上風車は150メートルである。ポートタワーセリオンの高さをわずかに上回るこの大型タービンは、より多くのエネルギーをより効率的に発電することができる。